

2 子どもの生活実態（相談・救済、参加、居場所、差別等）

（1）相談・救済

① 子どもの日常生活と権利侵害の実態

ア 叩かれたり殴られたりすること

子ども全体としては、「ある」2.7%、「ときどきある」10.3%、「あまりない」17.5%で、「ない」という回答は69.0%であった。

年齢別に見ると、「ない」という回答が、小学生64.3%、中学生70.9%、高校生74.8%で、各年代とも最も多かった。「ある」「ときどきある」という回答は、あわせると各年代とも10%以上あった。年代別に比較すると、中学生(11.3%)・高校生世代(11.5%)より、小学生世代の「ある」「ときどきある」をあわせた回答の方が高かった(15.5%)。

Q4 あなたは、おとなからたたかれたり、なぐられたりしていますか

図34 【子ども—全体】

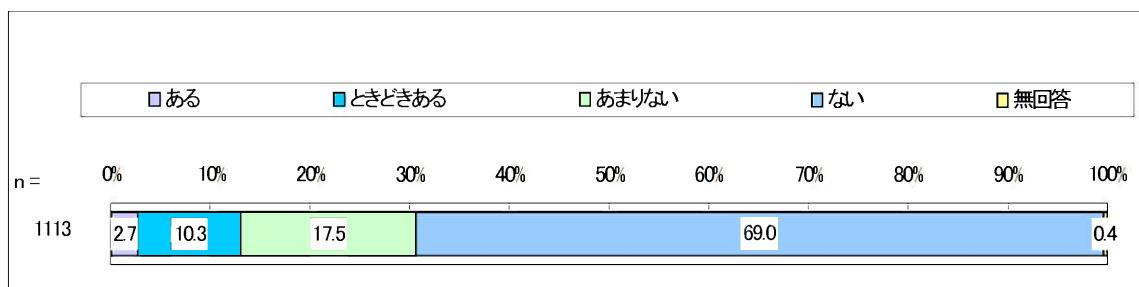
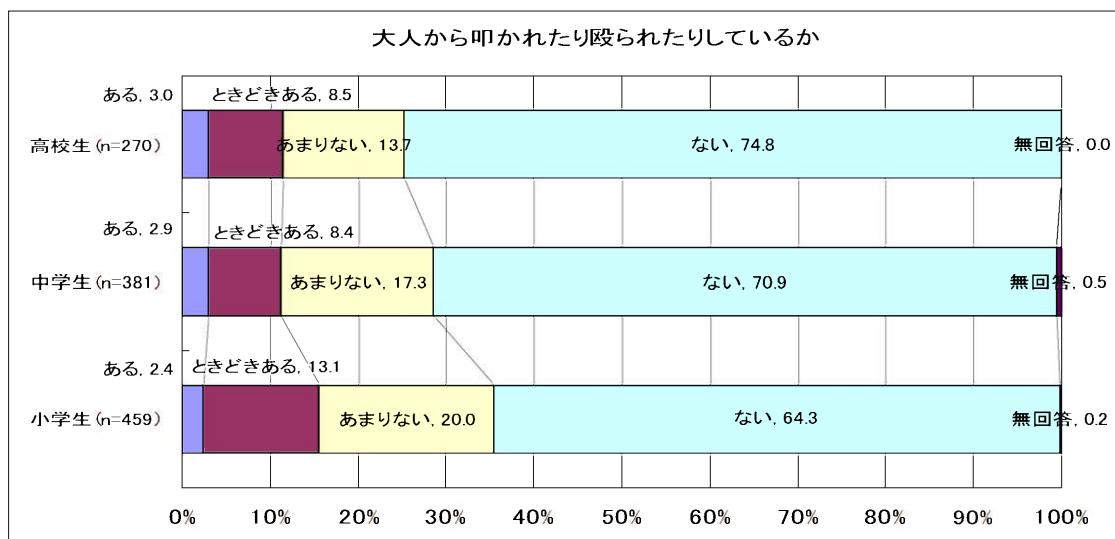


図35 【子ども一年齢別】



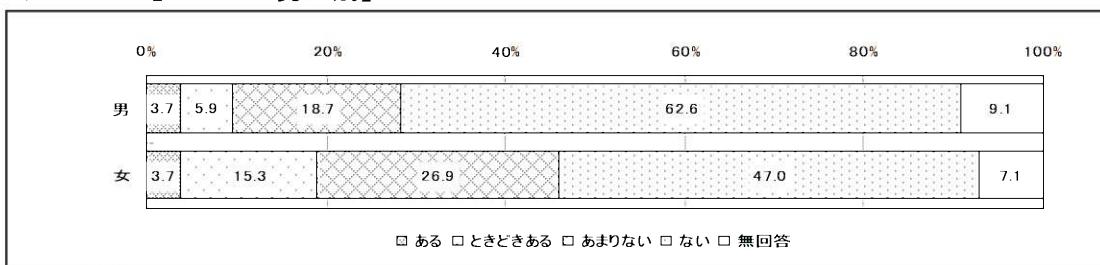
※小学生（11歳～12歳）、中学生（13歳～15歳）、高校生（16歳～17歳）

2008年調査では、親から叩かれたことがあると回答する割合は9.1%、先生から叩かれたことがあると回答する割合は2.0%であった。前回調査と今回調査では質問形式が異なるため単純に比較することはできないが、子どもの状況は改善されているとはいえない傾向にある。

次に、おとなに対して「子どもを叩くことがあるか」とたずねたところ、「ある」「ときどきある」という回答は、男性であわせて 9.6%、女性で 19.0%で、男性より女性の方が高い結果であった。また、子どもの有無別にみると、「18歳未満の子どもがいる」おとなの回答が、「ある」4.9%「ときどきある」32.0%あわせて 36.9%にのぼった。

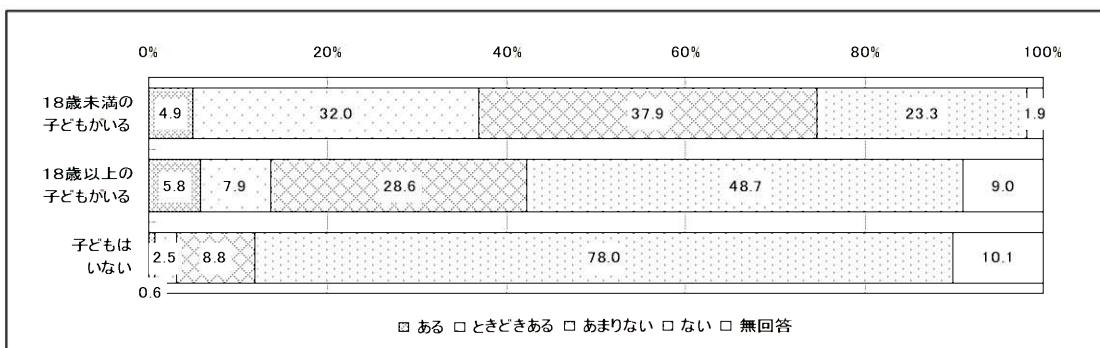
Q 9 あなたは、子どもをたたくことがありますか

図 3 6 【おとな—男女別】



※男性 (n=187)、女性 (n=268)

図 3 7 【おとな—子どもの有無別】

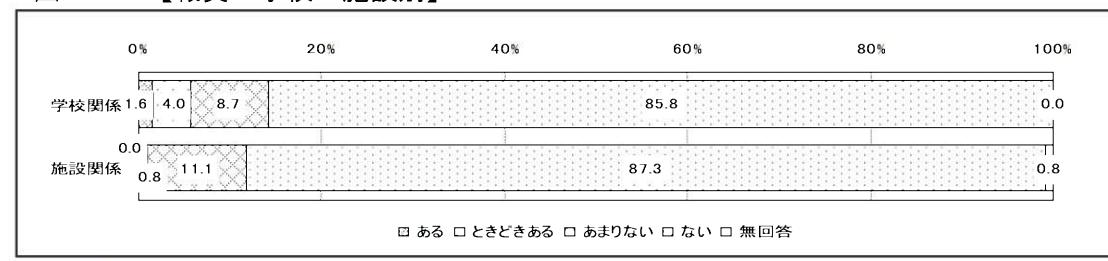


※18歳未満の子どもがいる (n=103) 18歳以上の子どもがいる (n=189) 子どもはない (n=159)

さらに、職員に対して「子どもを叩くことがあるか」とたずねたところ、学校関係の職員で「ある」1.6%「ときどきある」4.0%「あまりない」8.7%、施設関係の職員で「ときどきある」0.8%「あまりない」11.1%という回答であった。以上から、「あまりない」という回答も「一度でも叩いたことがある」と解釈すれば、「職場で子どもを一度でも叩いたことがある」割合は、学校関係の職員で 14.3%、施設関係の職員で 11.9%という結果であった。

Q 1 0 あなたは、職場で子どもをたたくことがありますか

図 3 8 【職員—学校・施設別】



※学校関係 (n=253) 施設関係 (n=126)

イ 心を傷つけられる言葉を言われること

子ども全体としては、「ある」「ときどきある」があわせて 14.9%で、「ない」という回答は 63.4%であった。

年齢別に見ると、「ある」「ときどきある」という回答は、小学生・中学生・高校生世代ともに、あわせて 15%前後の回答（小学生 13.3%、中学生 15.4%、高校生 17.1%）であるが、年代があがるに従って若干増加している。

Q5 あなたは、おとなから心を傷つけられる言葉をいわれますか

図39 【子ども一全体】

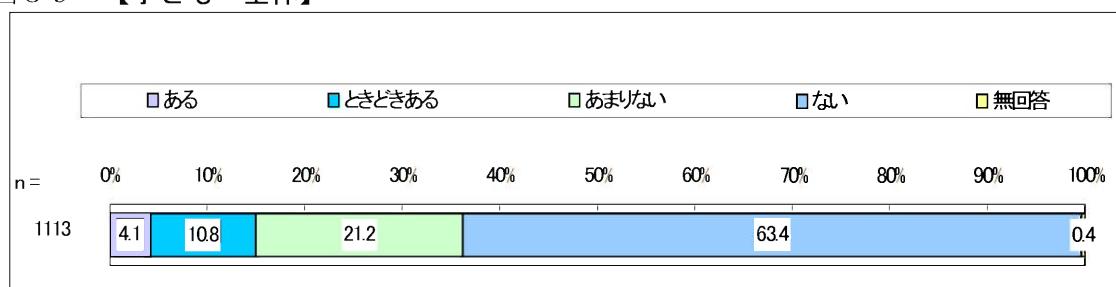
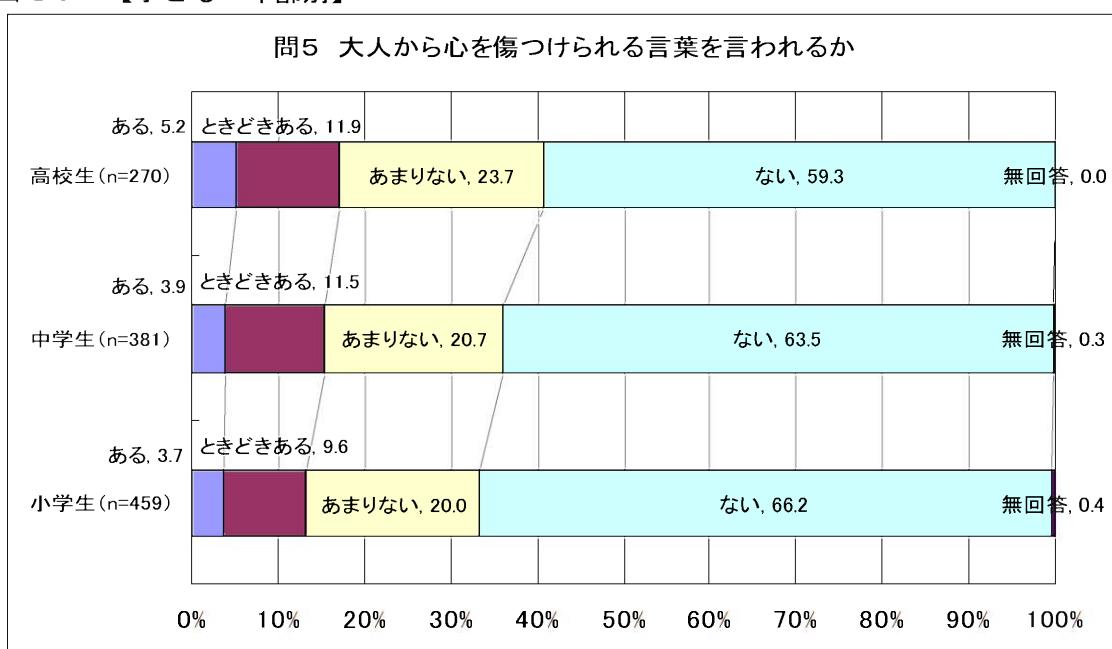


図40 【子ども一年齢別】



※小学生（11歳～12歳）、中学生（13歳～15歳）、高校生（16歳～17歳）

2008 年調査では、親に心を傷つけられる言葉をいわれたことがあると回答する割合は 8.6%、先生から心を傷つけられる言葉をいわれたことがあると回答する割合は 7.3%であった。前回調査と今回調査では質問形式が異なるため単純に比較することはできないが、今回調査で 15%前後の子どもが「ある」「ときどきある」と回答している状況は、前回調査時から改善されているとはいえない。

次に、おとなに「子どもの心を傷つける言葉を言ったことがあるか」とたずねると、「ある」「ときどきある」という回答は、男性であわせて 17.1%、女性 34.0%で、男性より女性の方が高い結果であった。また、子どもの有無別にみると、「18歳未満の子どもがいる」おとなの回答が、「ある」8.7%、「ときどきある」39.8%で、あわせて 48.5%にのぼった。

Q 10 あなたは、子どもの心を傷つける言葉を言ったことがありますか

図 4 1 【おとな—男女別】

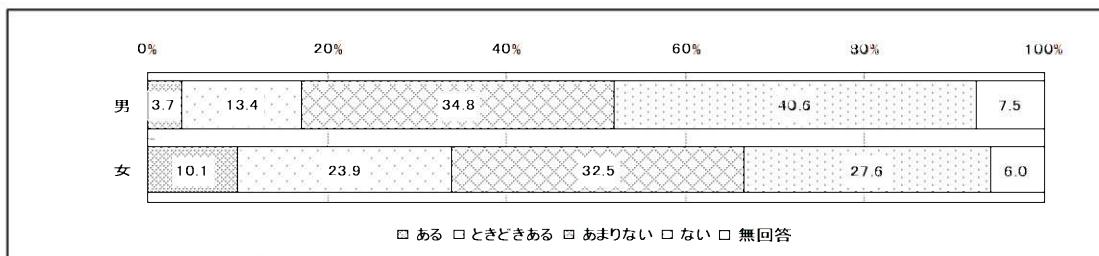
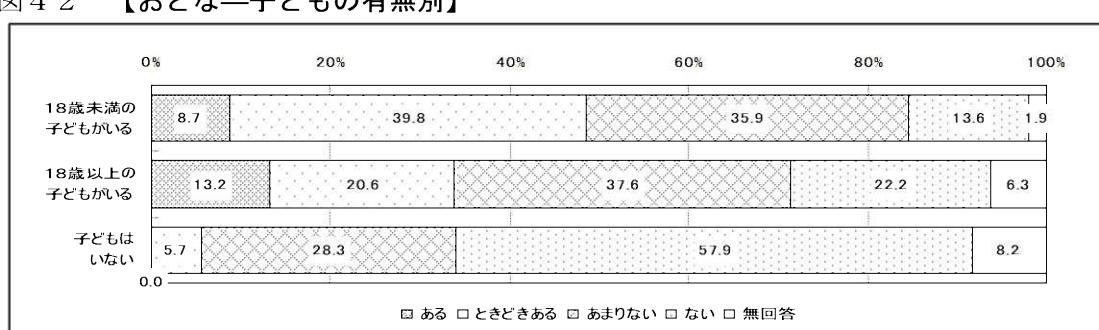


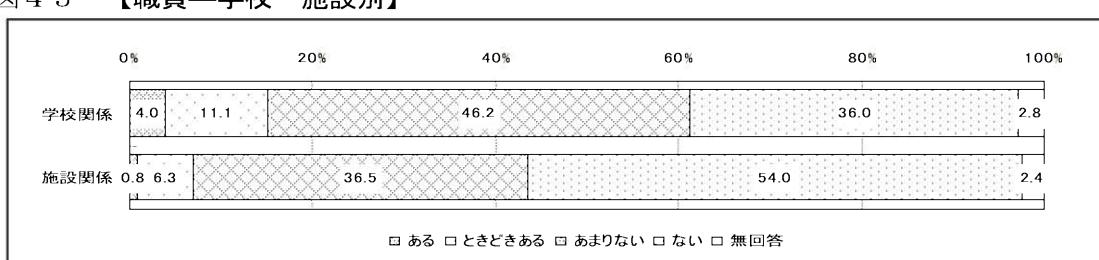
図 4 2 【おとな—子どもの有無別】



さらに、職員に対して「子どもの心を傷つける言葉を言ったことがあるか」とたずねたところ、学校関係の職員で「ある」4.0%、「ときどきある」11.1%で、あわせて 15.1%、施設関係の職員で「ある」0.8%、「ときどきある」6.3%で、あわせて 7.1%という回答であった。

Q 11 あなたは、職場で子どもの心を傷つける言葉を言ったことがありますか

図 4 3 【職員—学校・施設別】



ウ 性的に嫌なことをされること

小学生・中学生・高校生世代ともに「ない」という回答がほとんどであるが、「ある」「ときどきある」という回答があわせて小学生1.9%、中学生1.1%、高校生が0.8%あった。

Q6 あなたは、おとなから性的にいやなことをされることがありますか

図44 【子ども—全体】

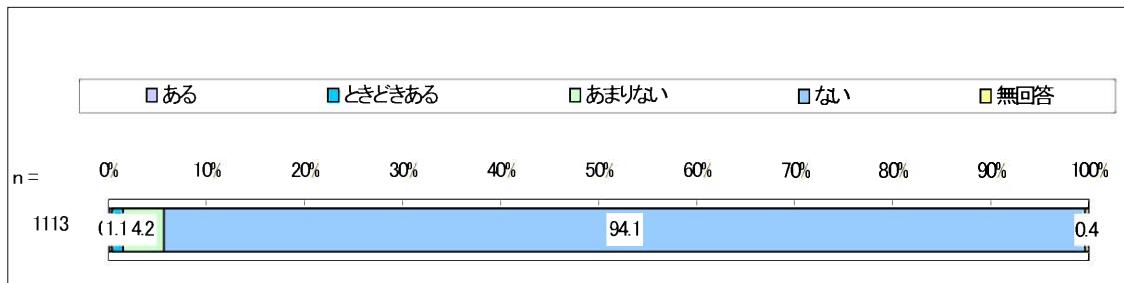
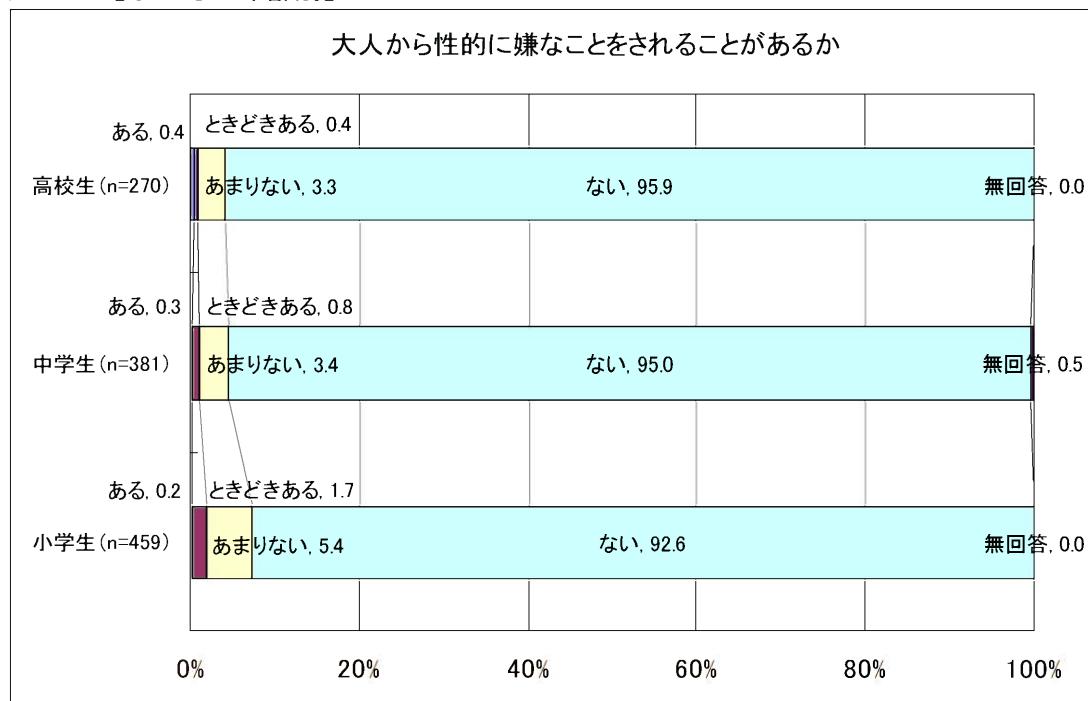


図45 【子ども一年齢別】



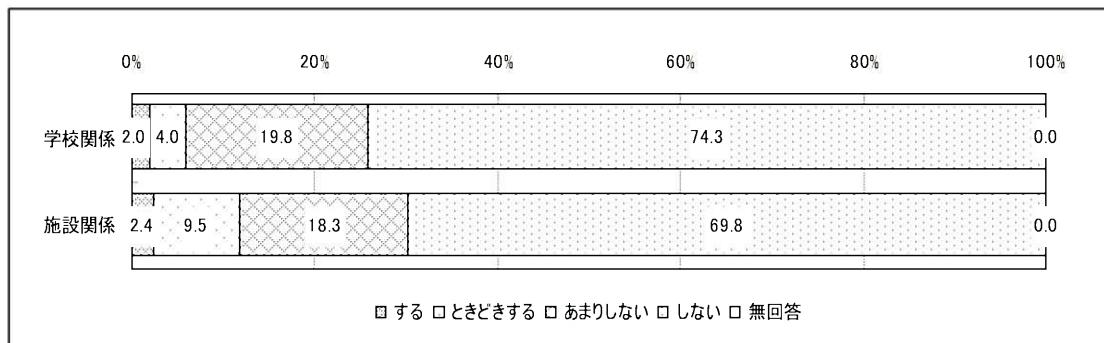
※小学生（11歳～12歳）、中学生（13歳～15歳）、高校生（16歳～17歳）

2008年調査では、親からの性的に嫌なことをされたことがあると回答する割合は0.8%、先生からの性的に嫌なことをされたことがあると回答する割合は0.5%であった。前回調査と今回調査では質問形式が異なるため単純に比較することはできないが、今回調査でも依然として「性的に嫌なことをされることがある」と回答する子どもが存在する結果となった。

次に、職員に対して「子どもがおとなから性的に嫌なことをされたことを聞いたことがあるか」たずねたところ、学校関係の職員で「ある」2.0%、「ときどきある」4.0%で、あわせて6.0%、施設関係の職員で「ある」2.4%、「ときどきある」9.5%で、あわせて11.9%という回答であった。施設関係の職員の方が、子どもがおとなから性的に嫌なことをされたことを聞いたことがある割合が高かった。

**Q 7 あなたは、子どもが、おとなから、性的にいやなことをされたりさせられたりしたこと
に最近気づいたり聞いたりしますか**

図4 6 【職員—学校・施設別】



※学校関係 (n=253) 施設関係 (n=126)

エ いじめ

年代があがるにしたがって、「ある」「ときどきある」という回答は減少傾向にあるが、小学生は 10.7%、中学生は 8.7%、高校生は 6.7%の子どもが、「ある」「ときどきある」と回答している。

Q 7 あなたは、他の子どもからいじめられることがありますか

図 4 7 【子ども—全体】

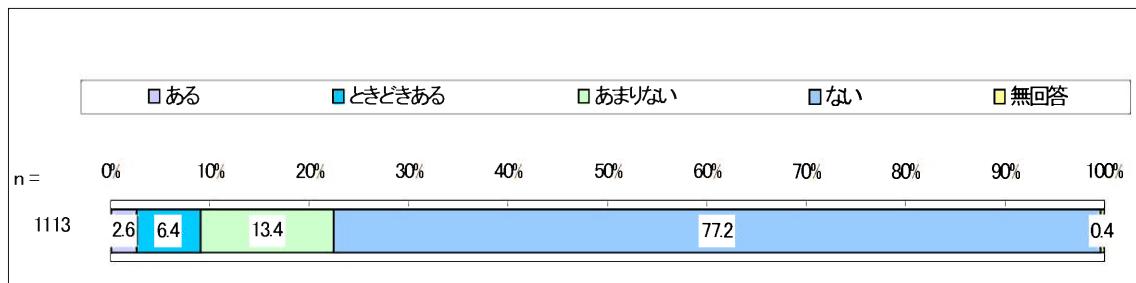
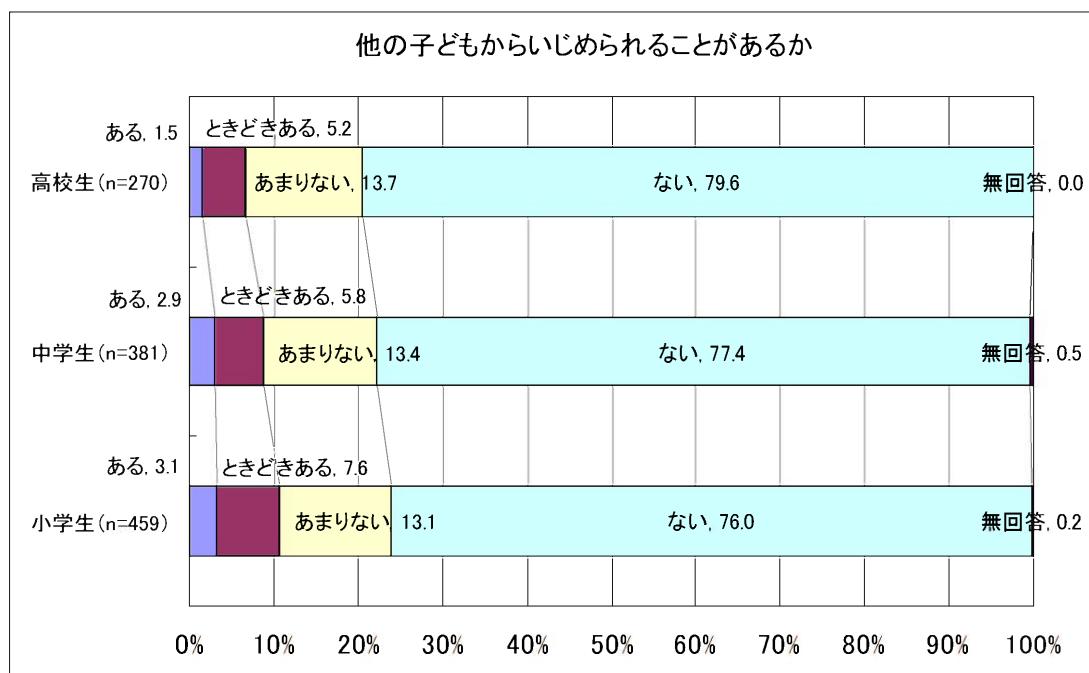


図 4 8 【子ども—年齢別】



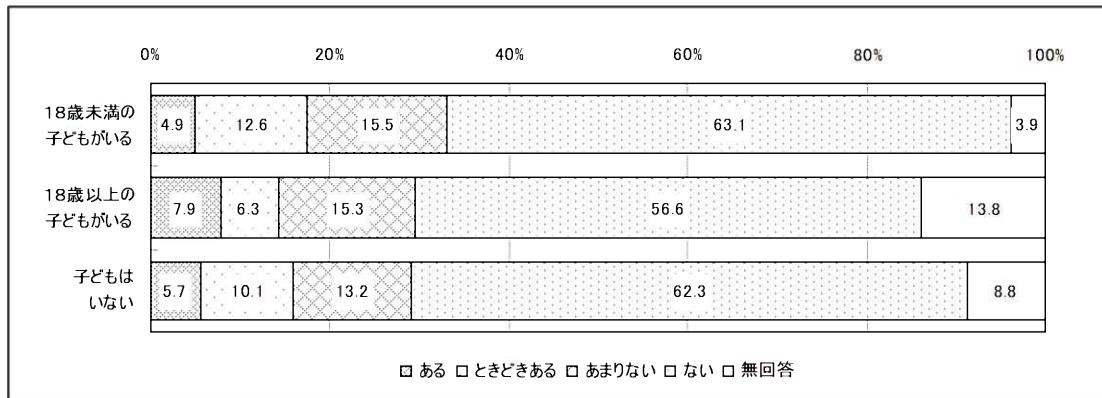
※小学生（11歳～12歳）、中学生（13歳～15歳）、高校生（16歳～17歳）

2008 年度の調査では、「友だちや先輩などからつらくてどうしようもないことをされたことがあるか」という設問に対して、「ない」という回答が子ども全体で 55.5%あり、何らかの経験がある子どものなかで多い回答のものは、「傷つく言葉を言われた」が 26.0%、「無視、仲間はずれ」が 18.9%、「たたかれたり、けられたりした」が 10.3%であった。前回調査と今回調査では質問形式が異なるため単純に比較することはできないが、今回調査でも依然としていじめられる（た）経験があると回答する子どもが一定数いる結果となった。

次に、おとなに対して「子どものいじめに最近気づいたことがあるか」をたずねたところ、「ある」「ときどきある」回答をあわせると、子どもの有無により若干の差異は見られるものの 15% 前後のおとなが、子どものいじめに最近気づいたことがあると回答している。

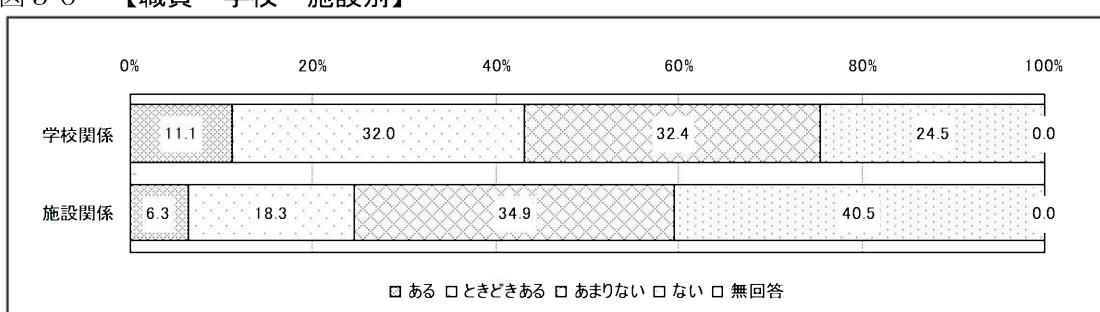
Q 7 あなたは、子どものいじめに最近気づいたことがありますか

図 4 9 【おとな—子どもの有無別】



同様に、職員に対して「子どものいじめに最近気づいたことがあるか」たずねると、学校関係の職員で「ある」「ときどきある」とする回答があわせて 43.1%、施設関係の職員で 24.6% であった。学校関係の職員が子どものいじめに気づく割合が、圧倒的に高いという結果であった。

図 5 0 【職員—学校・施設別】



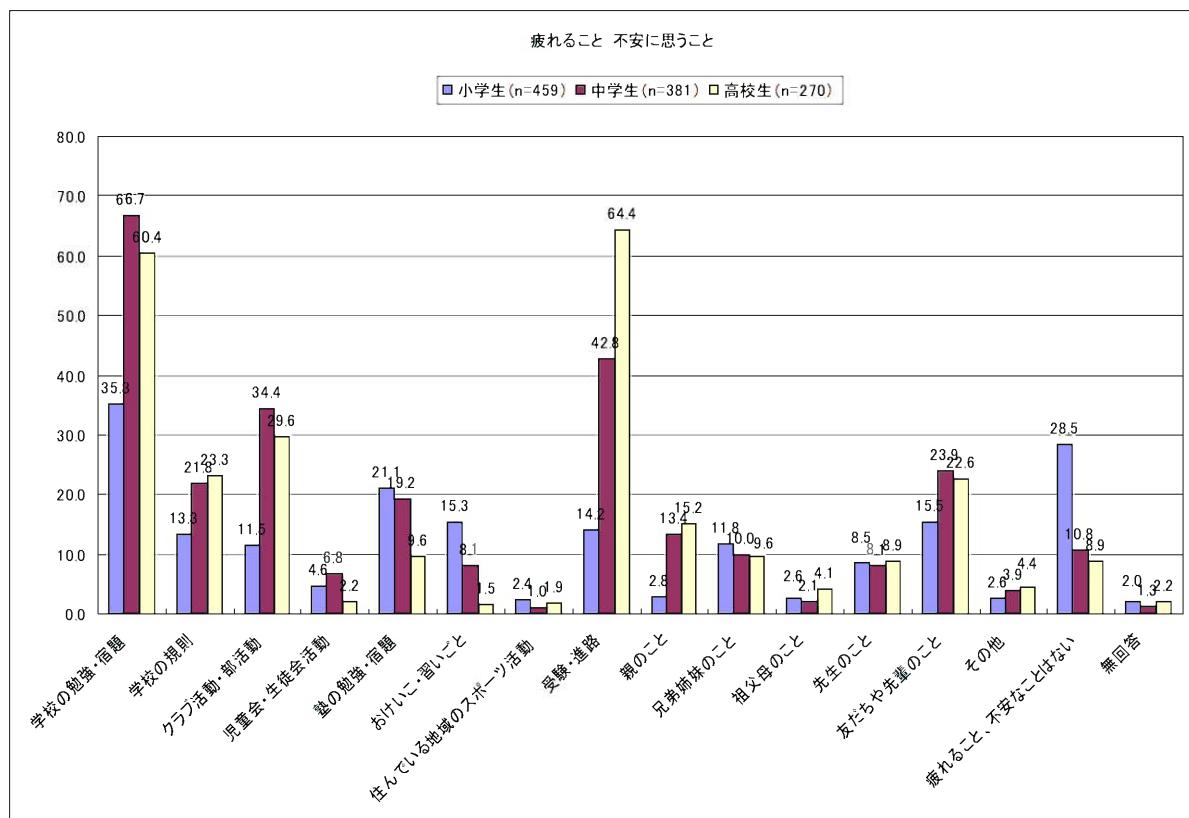
才 疲れること、不安に思うこと

高校生世代の回答で多いのは、「受験・進路」64.4%、「学校の勉強・宿題」60.4%であった。次いで、「クラブ活動・部活動」29.6%、「学校の規則」23.3%、「友だちや先輩のこと」22.6%が続く。

中学生世代は、「学校の勉強・宿題」が66.7%で最も多く回答している。次いで「受験・進路」42.8%、「クラブ活動・部活動」34.4%、「友だちや先輩のこと」23.9%、「学校の規則」21.8%が続く。

小学生世代の場合は、最も多い回答で「学校の勉強・宿題」の35.3%であり、「疲れること、不安なことはない」という回答が28.5%で、疲れや不安を感じる子どもは、中学生・高校生に比べて少ない。

図5.1 【子ども一年齢別】



※小学生（11歳～12歳）、中学生（13歳～15歳）、高校生（16歳～17歳）

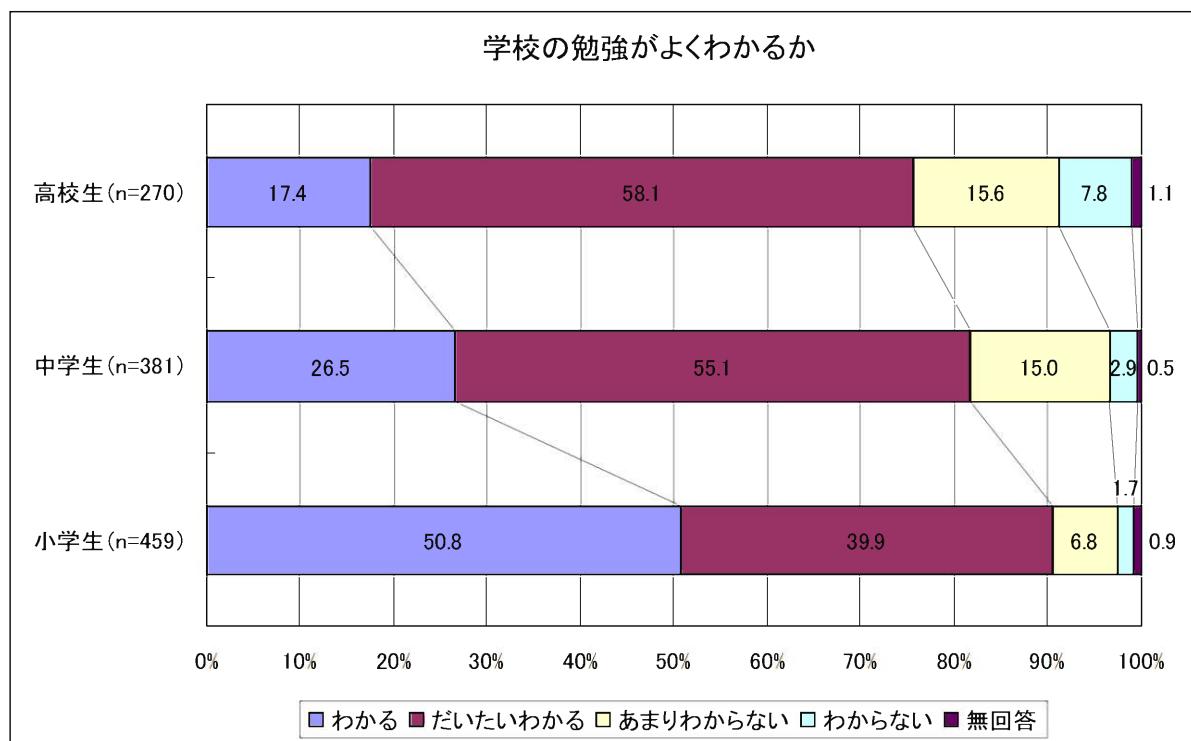
2008年度調査でも、子ども全体の回答のなかで回答率の高いものとして、「学校の勉強・宿題」56.5%、「受験・進路」37.5%、「友だちや先輩のこと」23.6%、「学校の規則」22.8%、「塾の勉強・宿題」20.2%、「クラブ活動・部活動」18.7%があがっている。子どもにとって「疲れること、不安なこと」として、前述にあげた項目が、依然として子どもに負担感を与えていた結果となっている。

力 学校の勉強がよくわかるか

「わかる」という回答は小学生世代で 50.8% であるが、年代があがるにしたがって減少傾向にあり、逆に「だいたいわかる」「あまりわからない」「わからない」という回答は、年代があがるにしたがって増加傾向にある。

Q 1 6 あなたは、学校の勉強がよくわかりますか

図 5 2 【子ども一年齢別】



※小学生（11歳～12歳）、中学生（13歳～15歳）、高校生（16歳～17歳）